

Interview 関係者に聴きました



西諸地区森林組合
事業課長

たてやま ゆたか
立山 豊 さん

今回、市農業振興課と協力し、ビレッジプラザへの市有林材の提供を実施しました。

この取り組みでは、一生に一度しかないという責任を感じるとともに、先人たちが育てた木材を提供できるという感謝の気持ちを持ちながら仕事をさせてもらいました。

思った以上に基準に合った木材が少なかったことや、長材のため採材・搬出に苦労しましたが、平成31年2月には、小林市に割り当てられた数量を無事に製材所に納品することができました。

ビレッジプラザへの木材提供をきっかけとして市の林業に目を向けてもらい、豊かな森林資源を次世代に引き継いでいただければ幸いです。

宮崎県山村・木材振興課
みやざきスギ活用推進室
主事



たけもと ともか
竹本 智佳 さん

本県は国内有数の森林・林業県であり、この豊富な森林資源を循環利用していくため、新たな木材需要の創出が重要な課題のひとつになっています。

そこで、全世界が注目する東京2020大会の情報発信力により、“みやざきスギ”を国内外に広くPRして県産材の利用拡大に繋げるため、ビレッジプラザのプロジェクトに参画しました。

大会終了後には、使用した木材を東京2020大会のレガシーとして公共施設などに再利用し、多くの県民の記憶に残すとともに、木材利用の意識の高揚につなげていくこととしています。

今後とも、みやざきスギの魅力の発信に努め、さらなる木材需要の拡大に取り組んで参ります。

持続可能な経営を目指す市有林の取り組み

市有林は、生物の多様性や土壌・水資源の保全などに配慮しながら持続可能な森林経営を行っていることを保証する、S⁺G⁺E⁺C⁺森林認証を取得しています。市有林が自然環境の保護と木材生産を両立している森林であることが第三者から保証されていることで、今回のビレッジプラザへの

木材の提供が可能になりました。現在、市有林を含めた県内の多くの森林で、戦後の木材不足に伴い植えられたスギが伐採に適した時期を迎えており、伐採が進んでいます。貴重な森林資源を次世代に引き継ぐために「伐る・使う」だけでなく、伐採後に再び「植える」ことで、計画的に森林資源を循環させることが重要です。

近年、市有林でも市役所新庁舎やビレッジプラザに使用するためにスギやヒノキの伐採を行いました。伐採した市有林は、原則として2年以内に植え直しを行い、必要な手入れを行っています。先人から受け継いだ大切な資源であり、市の財産である市有林を、次の世代にしっかりと引き継いでいくことができるように管理に努めています。

百年スギ（木浦木市有林内）

百年スギは東方木浦木地区、ジョウゴ岳の麓に広がる約2㍍の市有林です。

「百年ごとに伐採と植林を繰り返し、その収入をもって市（当時は町）の永遠の基礎とせよ」

市有林内にある記念碑には、植林の経緯に加え、先人たちの言葉が刻まれています。

今年で植林から79年目。保存林として次世代に引き継ぐために5年前に間伐を実施し、伐採した木材は新庁舎建設に役立てられました。



市有林ひとくち話



市有林産のスギ丸太材を東京2020大会選手村ビレッジプラザに提供！

「みやざきスギ」を選手村ビレッジプラザへ

1月29日（水曜）に報道陣に向けて公開された、東京2020オリンピックの選手村ビレッジプラザ。オールジャパンで大会を盛り上げ、環境に配慮した持続可能な大会を実現するため、全国63自治体から提供された国産材を利用して建設されました。

平成3年から28年間連続スギ丸太生産量日本一を誇る宮崎県からも、本市、都城市、日向市、美郷町、諸塚村、県の6つの自治体が所有する山林から木材が調達され、「みやざきスギ」として提供されました。

本市では、市有林の維持管理を委託している西諸地区森林組合の協力を得て、平成30年4月から伐採予定地の選定を開始。野尻町三ヶ野山の柿川内市有林、佐土瀬原市有林の2か所のスギ山を候補地として選定しました。その後、県林業技術セン

ターの協力を得て、条件に適合するかを調査し、平成30年11月から翌年2月までの期間に伐採。294本のスギ丸太材を県へ有償提供しました。ビレッジプラザは大会終了後に解体され、提供された木材はレガシー（遺産）として県に返還されます。返還された木材は、大会の感動と記憶を次の世代につなぎ、持続可能な資源である森林の大切さに目を向ける機会をつくるために、公共施設などで役立てられる予定です。

ビレッジプラザって？

選手村内の東側に位置し、大会期間中の選手の生活を支える施設です。花屋や雑貨店などの店舗、カフェ、メディアセンターなどが配置されます。メディアを通して多くの人の目に触れる、選手村の代表的な施設です。